1　出産予定日の決定に**有効でない**のはどれか。

a　頭殿長

b　推定体重

c　基礎体温測定

d　最終月経開始日

e　体外受精胚移植日

2　高齢者保健について正しいのはどれか。

a　要支援の認定者数は横ばいである。

b　介護保険には国民全員が加入する。

c　要介護の認定には認知機能障害は重要である。

d　要介護となる原因で最も多いのはうつである。

e　介護保険財政は全て保険料でまかなわれている。

3　X染色体連鎖劣性遺伝病**でない**のはどれか。

a　血友病B

b　Lesch-Nyhan 症候群

c　21-hydroxylase 欠損症

d　副腎白質ジストロフィー

e　Becker 型筋ジストロフィー

4　出生直後の正常新生児所見はどれか。

a　黄色便

b　体温 37.3 ℃

c　心拍数 60 回/分

d　呼吸回数 12 回/分

e　最高血圧 120 mmHg

5　各職種と役割との組合せで正しいのはどれか。**2つ選べ。**

a　保健師――――――――――――――保健指導

b　薬剤師――――――――――――――処方箋の交付

c　看護師――――――――――――――診断書の交付

d　歯科医師――――――――――――――死亡診断書の交付

e　作業療法士――――――――――――――治療体操などの運動療法

6　胎便について正しいのはどれか。**2つ選べ。**

a　無臭である。

b　黄色である。

c　大腸菌が含まれている。

d　胎児の肺にとって有害である。

e　生後3日を過ぎてから排泄される。

7　1か月健診時の正常産褥経過として正しいのはどれか。

a　赤色悪露を認める。

b　成乳が分泌される。

c　子宮は手拳大である。

d　リビド着色を認める。

e　下肢に浮腫を認める。

8　地域包括支援センターについて正しいのはどれか。

a　都道府県毎に設置される。

b　児童虐待の通報先の一つである。

c　地域保健法によって規定されている。

d　センター長には医師を充てる。

e　主任介護支援専門員の配置が義務付けられている。

9　消化性潰瘍治療薬のなかで子宮収縮作用があるため妊婦には投与**禁忌**の薬剤はどれか。

a　抗コリン薬

b　酸化マグネシウム

c　ドーパミンD2 阻害薬

d　プロトンポンプ阻害薬

e　プロスタグランジン製剤

10　心音図においてⅠ音の減弱が認められる疾患はどれか。

a　甲状腺機能亢進症

b　僧帽弁閉鎖不全症

c　三尖弁狭窄症

d　脚　気

e　貧　血

11 ワルファリンを服用する脳塞栓症患者に、制限する必要が**ない**食物はどれか。

a 納　豆

b 青　汁

c ほうれん草

d ブロッコリー

e グレープフルーツ

12 直接および間接クームス試験の両方に必要なのはどれか。

a 患者の血清

b 患者の赤血球

c 健常者の血清

d 健常者の赤血球

e 抗免疫グロブリン抗体

13 潜在性結核感染症について正しいのはどれか。**２つ選べ。**

a BCG接種の対象である。

b 標準的抗結核薬４剤による治療を行う。

c 結核の感染源となるので隔離が必要である。

d 治療の際には感染症法による２類感染症として届出を行う必要がある。

e 結核接触者検診において、クォンティフェロン®（インターフェロンγ放出試験）検査で判断する。

14 ホルモンとその過剰症状の組合せで**誤っている**のはどれか。

a 甲状腺ホルモン――――――――――徐　脈

b インスリン――――――――――低血糖

c コルチゾール――――――――――高血圧

d プロラクチン――――――――――乳汁漏出

e 成長ホルモン――――――――――軟部組織の肥大

15 高カルシウム血症となるのはどれか。**２つ選べ。**

a 慢性腎不全

b ビタミンD中毒

c クッシング症候群

d 甲状腺機能低下症

e 副甲状腺機能亢進症

16 下血を主訴に来院した場合、鑑別診断として**誤っている**のはどれか。

a 内痔核

b 直腸癌

c 結腸憩室症

d 潰瘍性大腸炎

e 過敏性腸症候群

17 学校医の職務で正しいのはどれか。**２つ選べ。**

a 定期予防接種

b 養護教諭の任命

c 虐待児童の保護隔離

d 疾病予防処置と保健指導

e 児童・生徒の定期健康診断

18 受精・着床について正しいのはどれか。

a 受精は子宮内腔で行われる。

b 着床は桑実胚期に行われる。

c 受精から着床まで約２週間を要する。

d 着床部位は子宮内膜の緻密層である。

e 射精された精子の活性時間は約12時間である。

19 わが国の国民医療費で正しいのはどれか。

a 年間50兆円を超える。

b 国民健康保険で給付される。

c 介護保険の費用も含まれる。

d 公費負担は50％以下である。

e 対GDP比はOECD諸国の中で上位にある。

20 眼窩ふきぬけ骨折で**見られない**のはどれか。**２つ選べ。**

a 眼球突出

b 眼球陥凹

c 咬合不全

d 開口障害

e 知覚障害

21 開放創が1 cm以下の汚染が少ない開放性骨折の治療で**誤っている**のはどれか。

a 抗MRSA薬を投与する。

b 破傷風トキソイドを筋注する。

c 大量の生理食塩水で洗浄する。

d 受傷後6時間以内に創の処置をおこなう。

e デブリドマンを行い、骨折部を内固定する。

22 騒音性難聴について正しいのはどれか。**3つ選べ。**

a 伝音性難聴である。

b 1,000 Hz付近の聴力低下で始まる。

c 職場における予防は産業医の職務である。

d 聴力検査は職場の健康診断項目に含まれる。

e 予防を目的として許容基準が設けられている。

23 麻酔導入時、自発呼吸消失後に気道確保が困難に陥った場合の処置として適切なのはどれか。

a 気管支拡張薬の投与

b 気管支鏡検査

c 気管切開

d 胸腔ドレナージ

e 経皮的心肺補助装置（PCPS）装着

24 放射線による晩期障害はどれか。**2つ選べ。**

a 下　痢

b 発がん

c 白内障

d 白血球減少

e 放射線宿酔

25 正しいのはどれか。

a うつ病では心気妄想が多い。

b Wernicke脳症では作話が多い。

c 強迫性障害では作為体験が多い。

d 統合失調症では思考制止が多い。

e Alzheimer型認知症では滞続言語が多い。

26 瘙痒を伴うデルマドロームはどれか。

a Ehlers-Danlos症候群

b Leser-Trélat症候群

c Ramsay-Hunt症候群

d Stevens-Johnson症候群

e Sturge-Weber症候群

27 反回神経について**誤っている**のはどれか。

a 喉頭の運動を司る。

b Galenの吻合を作る。

c 右側は左側より長い。

d 迷走神経の分枝である。

e 気管と食道の間を上行する。

28 診断した場合、直ちに届け出なければならないのはどれか。

a 麻　疹

b 後天性免疫不全症候群（AIDS）

c 梅　毒

d 腸管出血性大腸菌感染症

e 破傷風

29 腎盂、尿管について正しいのはどれか。

a 腎盂粘膜は扁平上皮である。

b 腎盂壁は蠕動運動をしない。

c 成人の尿管長は40～50 cmである。

d 尿管は総腸骨動静脈の腹側を走行する。

e 膀胱壁内尿管は膀胱壁に対し垂直に走行する。

30 緑内障の早期診断に有用な検査はどれか。**2つ選べ。**

a 眼底検査

b 視野検査

c 色覚検査

d 調節検査

e 眼位検査

31 正しいのはどれか。

a 胸膜頂とは壁側胸膜の左右外側端である。

b 胸膜腔とは胸郭によって囲まれる空間である。

c 胸膜洞とは肋骨横隔洞と肋骨縦隔洞のことである。

d 縦隔とは左右の肋骨に囲まれた空間である。

e 肺間膜とは肺門の上部に伸びる胸膜のヒダである。

32 レニン分泌部位について正しいのはどれか。

a 脳下垂体前葉細胞

b 脳下垂体後葉細胞

c 傍糸球体細胞

d 副腎髄質細胞

e 副腎皮質細胞

33 **誤っている**のはどれか。

a 精神科デイケアは外来医療として行われる。

b 精神科疾患による入院の平均在院日数は１年を超えている。

c 医療保護入院には１人の精神保健指定医の診察が必要である。

d 精神科疾患の外来受療率で最も高いのは気分（感情）障害である。

e １か月に100時間以上の時間外労働を行なった労働者に産業医は面接指導を行う。

34 コレステロールから生合成**されない**のはどれか。

a 胆汁酸

b ビタミンD

c アルドステロン

d エイコサノイド

e グルココルチコイド

35 常染色体性優性遺伝病の特徴はどれか。

a 主に男性に発症する。

b 患者の息子は患者とならない。

c 通常、患者の両親は非患者である。

d いずれの性を介しても伝達されうる。

e 非患者である親の血族結婚は発症率を増加させる。

36 原発性免疫不全症候群と易感染性病原微生物の組合せで正しいのはどれか。**２つ選べ。**

a 慢性肉芽腫症――――――――――Cytomegalovirus

b DiGeorge症候群 ――――――――――*Mycobacterium tuberculosis*

c Wiskott-Aldrich症候群 ――――――――*Streptococcus pneumoniae*

d Chediak-Higashi症候群 ――――――――*Pneumocystis jirovecii*

e X連鎖無ガンマグロブリン血症――――――Measles virus

37 わが国の最近の統計データとして正しいのはどれか。**２つ選べ。**

a 年間の死亡数は約150万人である。

b 総再生産率は1.3である。

c 出生率は8.6（人口千対）である。

d 離婚率は約５（人口千対）である。

e 悪性新生物の死亡総数割合は約30％である。

38 妊婦への投与が**禁忌**であるものはどれか。

a アセトアミノフェン

b アンジオテンシン変換酵素阻害薬

c イソニアジド

d セファロスポリン

e ヒドララジン

39 死斑が緑色を呈す可能性の高い中毒物質はどれか。

a 覚醒剤

b 有機リン

c 硫化水素

d 一酸化炭素

e 青酸化合物

40 正しいのはどれか。

a がん登録は地域保健法に規定されている。

b 日常生活動作のひとつに汗ばむ程度の運動がある。

c 介護老人保健施設は施設数としては充足している。

d 介護老人福祉施設は老人福祉法による特別養護老人ホームに相当する。

e 健康日本21において65歳以上の高齢者の自殺者数の抑制目標が挙げられている。

41　わが国の癌統計について正しいのはどれか。**２つ選べ。**

a　全癌による死亡のうち胃癌による死亡は１/３を占める。

b　乳癌は年々増加し最近の粗死亡率は欧米並みとなった。

c　男性の部位別癌死亡は肺癌がもっとも多い。

d　子宮癌の年齢調整死亡率は減少傾向にある。

e　癌による死亡数は全死亡数の約 20 %である。

42　隅角を表す部位はどこか。

a　角膜輪部後面と虹彩周辺部との間

b　虹彩周辺部と毛様体突起部との間

c　虹彩瞳孔部と水晶体前面との間

d　水晶体後面と前部硝子体との間

e　後部硝子体と網膜表面との間

43　67 歳の女性。高血圧と糖尿病で治療中である。昨晩夕食を摂食後、午後９時すぎより突然腹痛と下痢が出現した。顔面蒼白で冷汗も認めた。その後も下痢が持続し、明け方より血便となったため来院した。体温 37.1 ℃。脈拍 84/分、整。血圧 152/88 mmHg。腹部の触診で左下腹部に圧痛を認めた。血液学所見：赤血球 326 万、Hb 11.2 g/d*l*、白血球 9,400。血液生化学所見：CRP 2.03 mg/d*l*、CEA 2.6 ng/m*l*（基準値５以下）。下行結腸の内視鏡写真を示す。

診断はどれか。

a　大腸癌

b　腸結核

c　クローン病

d　潰瘍性大腸炎

e　虚血性大腸炎

下行結腸の内視鏡写真

44　72 歳の女性。ここ数週間で５kg 以上の体重増加があり、全身倦怠感、易疲労感と労作時の息切れを主訴に来院した。受診時の脈拍 152/分、不整。血圧 180/100 mmHg。経皮的動脈血酸素飽和度（SpO_2）82 %（room air）、下肢の浮腫が認められた。胸部エックス線写真を示す。

この患者に予想される所見はどれか。**２つ選べ。**

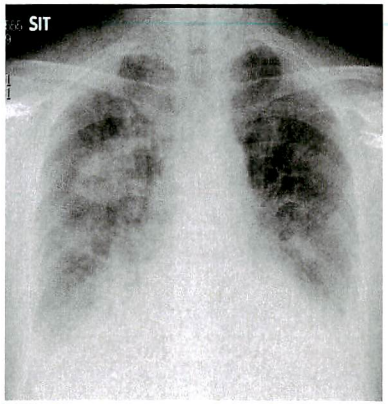
a　重症貧血

b　副甲状腺ホルモン値の低下

c　腹部エコー検査にて肝腫大・腹水

d　下腿前脛骨部に圧根を残さない浮腫

e　胸部造影CT検査にて肺動脈に血栓閉塞像



胸部エックス線写真

45　56 歳の男性。糖尿病、高血圧にて内服加療中。顔貌の変化、舌の巨大化を指摘されて紹介となった。以前と比べて、靴のサイズが大きくなったのを自覚している。

この症例の診断に必要な血液検査はどれか。**２つ選べ。**

a　HbA1c

b　成長ホルモン

c　コルチゾール

d　カテコラミン

e　ソマトメジンC

46 69歳の女性。多関節痛を主訴に来院した。1年前に関節リウマチを発症し、6か月前より副腎皮質ステロイド薬とメトトレキサートを内服しているが、圧痛関節数は10、腫脹関節数は6である。口腔粘膜に異常を認めない。CRP 5.6 mg/dl、血中β-Dグルカン陰性。胸部CTにて右上肺野に石灰化を伴う5 mm大の結節を認めた。ツベルクリン反応陽性1＋。4週間後にTNF阻害薬を開始する予定とした。

この患者への対応として適切なのはどれか。

a　アムホテリシンBの吟嗽

b　イソニアジドの内服

c　ペンタミジンの点滴静注

d　オセルタミビルの予防内服

e　セフェム系抗菌薬内服

47 生後10日の新生児。胎児期より成長障害、心奇形、手指の変形を指摘されていた。出生後の児は、口唇口蓋裂、小額症、over lapping finger、rocker-bottom feetなどの奇形が見られ、心臓超音波検査で心内膜症欠損症と診断され、加療中である。両親の了解を得て染色体検査を実施した。20個中20個の細胞すべてに図に示すような核型を認めた。

親に対する説明として正しいのはどれか。

a　「次の子が男児なら同じ病気になる可能性は約25％です」

b　「次の子が同じ病気になる確率は約50％です」

c　「多くが1年以内に死亡する重篤な病気です」

d　「心臓の手術をすれば予後のいい病気です」

e　「男児に多い病気です」

図

48 19歳の初産婦。4～5か月前から月経がなく、妊娠には気付いていたが、いずれの医療機関も受診していない。下腹痛を認め、救急車で来院した。

妊娠週数の決定に、もっとも有用な所見はどれか。

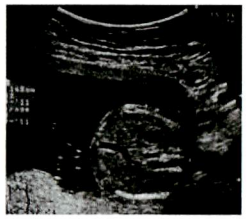
a　①

b　②

c　③

d　④

e　⑤

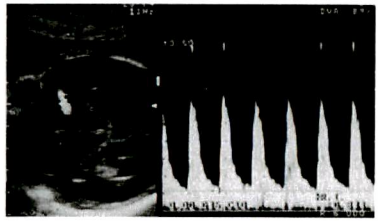


①

②

③

④



⑤

49　24歳の女性。衣服の上から熱湯がかかり右肘関節部屈側にⅡ度深達製熱傷を受傷した（熱傷面積５％）。

正しいのはどれか。

a　皮膚移植術の適応は無い。

b　肥厚性瘢痕にはなりにくい。

c　ケロイドの好発部位である。

d　手の知覚異常を来たしやすい。

e　放置すると関節拘縮を来たしやすい。

50　62歳の男性。突然の頭痛と右手足の脱力を主訴に救急車で搬送された。搬送時の意識状態はJCS I-2。脈拍88/分。血圧210/90 mmHg。神経学的には、右顔面を含む片麻痺と構語障害を認めた。頭部単純CTでは左基底核部に脳内出血を認めた。

この患者のリハビリテーションについて正しいのはどれか。

a　到達目標は医師が決定する。

b　障害が固定した後は必要ない。

c　生活の質の向上は目的にならない。

d　意識障害がある急性期にも対象になる。

e　血圧上昇はリハビリテーションの妨げにはならない。

51　60歳の女性。突然の胸背部痛を主訴に来院した。既往歴に高血圧がある。来院時胸部造影CTを示す。

合併する病態として、**考えにくい**のはどれか。

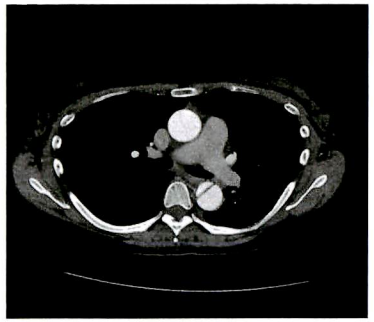
a　対麻痺

b　腸管虚血

c　急性腎不全

d　下肢急性虚血

e　大動脈弁閉鎖不全



胸部造影CT

52　24歳の女性。会社員。２週間前、高校時代から交際していた男性の浮気が発覚し、その男性と口論になった。その翌日から、口を動かしても声が出なくなったため耳鼻科を受診するも、器質的な異常は認めなかった。以後、筆談で相手とコミュニケーションを取るようになっていたが、本日、その男性と過ごしているときに突然倒れ、手足をバタバタと震わせたため救急車を要請した。搬送先の病院で頭部CTや脳波などの検査を受けたが異常所見を認めなかった。

疑われる症状はどれか。

a　幻　覚

b　健　忘

c　離人症状

d　転換症状

e　パニック発作

53　65歳の男性。血便を主訴に来院した。1か月前から便に少量の血液が付着するのを自覚していた。腹部は平坦、軟で、圧痛はなし。

血液所見：赤血球435万、Hb 12.8 g/dl。血液生化学所見：総蛋白7.0 g/dl、AST 26 IU/l、ALT 30 IU/l、LDH 276 IU/l（基準176～353）。免疫学的所見：CRP 0.1 mg/dl、CEA 2.5 ng/ml（基準5以下）。下部消化管内視鏡写真を示す。

治療として適切なのはどれか。

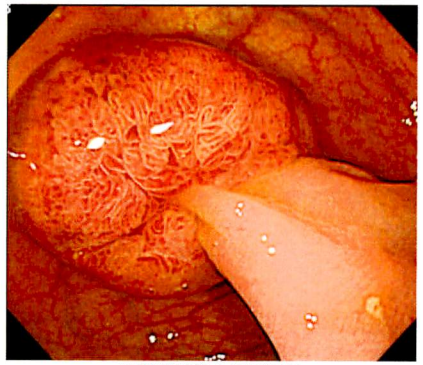
a　開腹手術

b　経過観察

c　放射線治療

d　内視鏡的摘除

e　抗癌化学療法



下部消化管内視鏡写真

54　14歳の女子。学校の健康診断で脊柱の変形を指摘されて受診した。単純エックス線検査の結果、特発性側弯症と診断された。

この患者に**見られない**身体所見はどれか。**２つ選べ。**

a　亀　背

b　肋骨隆起

c　肩甲骨高位

d　下肢深部腱反射の亢進

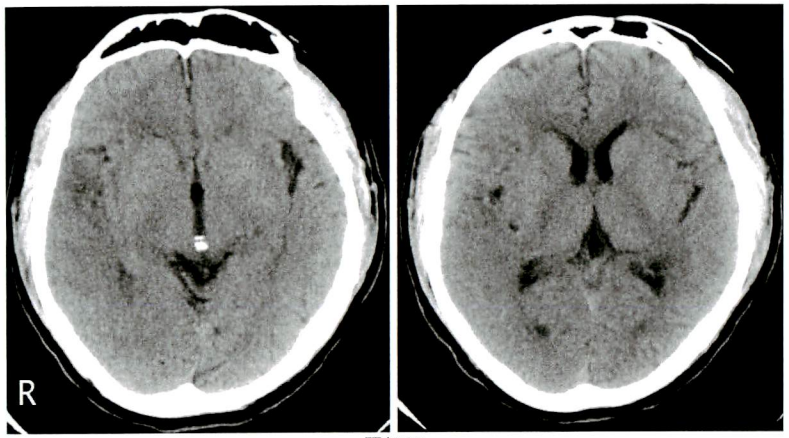
e　ウェストラインの非対称

55　47歳の男性。意識障害のため搬送された。

現病歴：4日前から右頭頂部の拍動性頭痛が出現。2日前に、近医で頭部CTを受けたが異常所見は指摘されなかった。しかし頭痛は持続していた。本日午前5時45分頃、口から泡を吹いていびき様の呼吸をしているのを妻に発見された。呼びかけても反応がないため、救急車で搬送され、午前6時22分当院に到着した。

既往歴：特記すべきことはない。

現　症：身長162 cm、体重56 kg。体温35.8 ℃。脈拍112/分、整。血圧130/90 mmHg。心肺腹部 異常なし。意識は傾眠、病態失認と左半側身体失認を認める。瞳孔は左右同大、対光反射は迅速。眼底異常なし。眼球は右へ共同偏倚し、左同名半盲を認める。顔面を含む左弛緩性片麻痺を認め、左Babinski反射は陽性。髄膜刺激徴候は陰性。感覚系は評価不能。尿失禁を認める。左顔面から始まり全身に広がる間代発作を認める。来院時の頭部CTを示す。



頭部CT

確定診断に必要な検査はどれか。**2つ選べ。**

a　遺伝子検査

b　筋生検

c　脳生検

d　筋電図

e　脳　波

次の文を読み、56～58の問いに答えよ。

57歳の男性。動悸を主訴に来院した。

現病歴：近医で心室性期外収縮について精査を受けたが、治療不要と判断され経過観察されていた。本日夕方より、全身倦怠感を伴う動悸を自覚して近医を受診。12誘導心電図ではwide QRS tachycardiaが認められた。意識は清明で、血行動態の破綻はなかった。リドカイン、ジソピラマイドを投与するも停止せず、DC 100Jで洞調律へ復帰後、精査加療目的で当科へ紹介された。

既往歴：尿管結石

家族歴：姉が突然死

入院時身体所見・一般血液検査：特記事項なし。

不整脈発作時および洞調律復帰後の12誘導心電図（①、②）、心エコー図（③、④）を示す。

56　心電図所見について正しいのはどれか。

a　発作時の心電図は右脚ブロック型の心室頻拍である。

b　非発作時の心電図でイプシロン波を認める。

c　非発作時の心電図は左脚ブロック型である。

d　非発作時の心電図では右軸偏位を認める。

e　発作時の心電図は上室性頻拍である。

57　心エコー所見について正しいのはどれか。

a　左室の拡大を認める。

b　右室の拡大を認める。

c　左室の壁運動低下を認める。

d　左心房の拡大を認める。

e　特に異常所見を認めない。

58　正しいのはどれか。

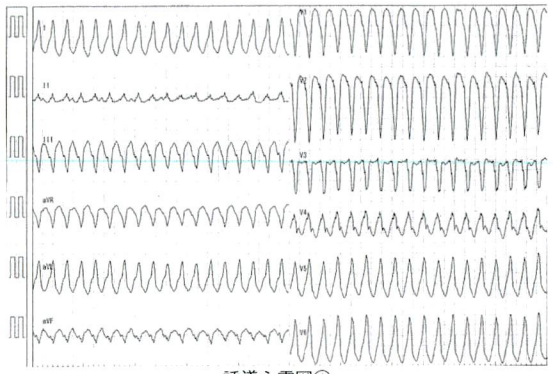
a　心臓の形態異常は伴わない。

b　診断に心筋生検が有用である。

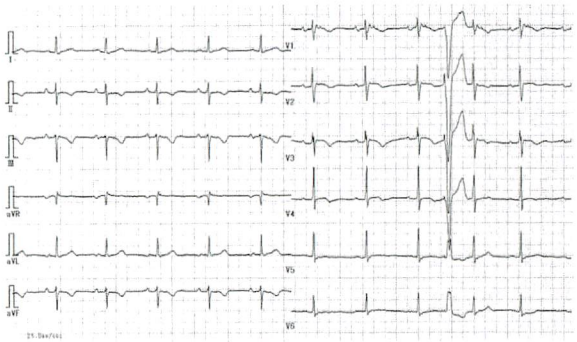
c　左心不全を合併することが多い。

d　多くは遺伝性（家族性）発症である。

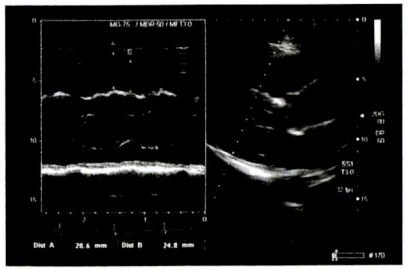
e　植込み型除細動器では予後を改善できない。



誘導心電図①



誘導心電図②



心エコー図（③）

心エコー図（④）

AOD 31 mm, LAD 37 mm, LVDd 40 mm, LVDs 22 mm,
IVS 11 mm, PW 11 mm, RVDd 37 mm RVDs 33 mm

次の文を読み、59～61 の問いに答えよ

75 歳の男性。3 か月前からの物忘れを主訴に来院した。

現病歴：妻と 2 人暮らし。元々性格は穏やかで年金などの手続きも自分で行っていた。3 か月くらい前から、何度も同じ事を聞いたり、幻視が出現するようになった。

既往歴：60 歳時から高血圧で降圧剤を服用している。

生活歴：飲酒は毎晩日本酒を 2 合。喫煙歴は 40 本/日だったが 5 年前から禁煙している。

現　症：血圧 140/72 mmHg。質問の応答は悪く、小さな音でも大きく反応する。壁に虫が見えるといった幻覚がある。上肢には軽度の固縮を認め、歩行はふらつき歩行である。深部腱反射は四肢で亢進している。

検査所見：血液所見：赤血球 465 万、Hb 13.8 g/dl、白血球　7,200、血小板 28 万。血液生化学所見：血糖 105 mg/dl、総タンパク 6.0 g/dl、AST 25 IU/l、ALT 30 IU/l、Na 137 mEq/l、K 4.0 mEq/l、Cl 98 mEq/l。脳波を別に示す。

脳波

59 脳波の所見で正しいのはどれか。

a 三相波

b Hypsarrhythmia

c 高振幅律動性徐波

d 周期性同期性放電

e 広範性棘徐波複合

60 この疾患について正しいのはどれか。**2つ選べ。**

a 家族性の発症はない。

b 頭部MRIでは脳の萎縮が見られる。

c 抗てんかん薬で治療が可能である。

d L-dopa製剤は初期には効果がある。

e 髄液の14-3-3蛋白が診断に有用である。

61 原因タンパク質について正しいのはどれか。

a 脳脊髄液中には存在しない。

b 大脳に存在するタンパク質である。

c 感染性はないので消毒の必要は無い。

d 診断が確定したら、隔離する必要がある。

e 内視鏡検査に使った道具はイソジン消毒をしておく。

次の文を読み、62～64の問いに答えよ。

76歳の男性。血痰と呼吸困難を主訴に来院した。

現病歴：２週前から全身倦怠感と38℃台の発熱が出現した。２日前より血痰を認め、労作時の息切れを自覚した。本日は安静時にも著明な息苦しさを感じて動けなくなったため、家族が救急車を要請した。

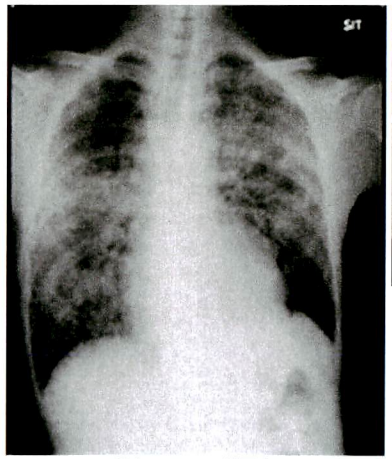
既往歴：特記すべきことはない。

生活歴：喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

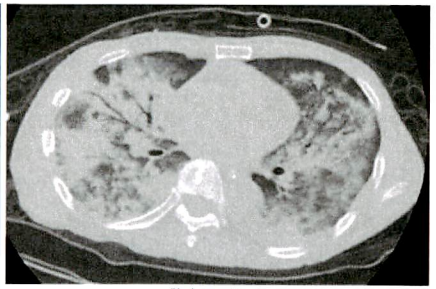
家族歴：特記すべきことはない。

現　症：意識は清明。身長165cm、体重57kg。体温37.5℃。呼吸数32/分。脈拍124/分、整。血圧152/88mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腿に浮腫を認めない。経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO_2〉82％

検査所見：尿所見：蛋白1＋、潜血2＋、糖（－）、顆粒円柱＋、赤血球円柱＋。血液所見：赤血球296万、Hb 8.6 g/dl、Ht 28％、白血球15,900（好中球85.5％、好酸球1.3％、リンパ球7.4％、単球5.5％、好塩基球0.3％）、血小板33万。血液生化学所見：総蛋白7.2 g/dl、アルブミン3.1 g/dl、尿素窒素16 mg/dl、クレアチニン1.1 mg/dl、LDH 217単位（基準119～229）、CPK 52単位（基準44～170）、CRP 10.3 mg/dl、抗好中球細胞質抗体（MPO-ANCA）136単位（基準20未満）、KL-6　330単位（基準500未満）、抗基底膜抗体陰性。胸部エックス線写真と胸部CT写真とを示す。



胸部エックス線写真



胸部CT写真

62　診断はどれか。

a　顕微鏡的多発血管炎

b　全身性エリテマトーデス

c　アレルギー性肉芽腫性血管炎

d　成人Still病

e　Goodpasture症候群

63　この疾患で**認められない**のはどれか。

a　多発単神経炎

b　消化管出血

c　黄　疸

d　紫　斑

e　急速進行性糸球体腎炎

64　治療として適切なのはどれか。**２つ選べ。**

a　大量ガンマグロブリン

b　シクロスポリン

c　インターフェロン

d　シクロホスファミド

e　副腎皮質ステロイド薬

次の文を読み、65～67 の問いに答えよ。

29 歳の女性。1 経妊 0 経産。妊娠 32 週 4 日、下腹痛を主訴に受診した。

現病歴：妊娠初期・中期は順調に経過していた。32 週 4 日、朝から下腹痛を認め、自宅で安静にしていたが、次第に増強したため、受診した。数日前から、下腿に浮腫が出現していた。出血や破水感はなかった。

既往歴：10 か月前に妊娠 10 週で流産。

家族歴：父が糖尿病と高血圧症。

現　症：意識は清明。身長 158 cm、体重 68 kg。体温 36.8 ℃。脈拍 82/分、整。血圧 138/90 mmHg。

腹部は緊張し、頻回の子宮収縮を認めていた。子宮口は 1 cm 開大し、少量の出血を認めていた。胎児心拍数は、160 bpm であった。

65　経腹超音波検査で、図に示す血腫像を認め、その部分に一致した圧痛があった。正しいのはどれか。

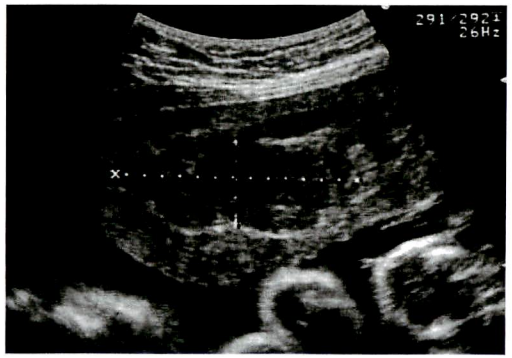
a　胎児死亡は稀である。

b　アンチトロンビン活性が上昇する。

c　外傷や子宮内感染が危険因子である。

d　播種性血管内凝固症候群の合併は稀である。

e　妊娠高血圧腎症に合併することは稀である。



図

66 正しい対応はどれか。**2つ選べ。**

a 自己血貯血を行う。

b 緊急帝王切開の準備を行う。

c MRIで子宮筋層の厚さを確認する。

d 塩酸リトドリンの持続点滴を行う。

e 持続的な胎児心拍数モニタリングを行う。

67 30分後、経腹超音波検査で血腫像が増大し、外出血が増量した。腹部は硬く、苦悶様の表情を呈している。入院時の血液検査では、白血球12,000、Hb 7.6 g/dl、血小板 6.2×10^3、胎児心拍数基線は160 bpm、基線細変動は消失している。

正しいのはどれか。

a 子宮全摘術が必須である。

b 新鮮凍結血漿輸血を行う。

c 鎮痛には、NSAIDが有用である。

d 硬膜外麻酔による帝王切開を行う。

e 娩出時、小児科医の立会いは不要である。